

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：平成 30 年 4 月 27 日 報告者：小笠原恵

行事種別	講演会	行事番号	180000403
開催日	平成 30 年 4 月 7 日 (土)		
時間	開始	15 時 30 分	終了 17 時 00 分
場所	JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 2 階 第 1 会議室 (所在地 豊田市)		
テーマ	肥満と不妊		
生涯教育履修数	専門教科 20 点		
司会	JA 愛知厚生連 豊田厚生病院	三澤 千鶴	
講師	JA 愛知厚生連 豊田厚生病院	栄養科 近藤 早 ジョンソン・エンド・ジョンソン (株) 学術部 高倉 祐子	
内容	<p>「肥満と妊娠」のテーマで、1.「妊娠時の栄養管理」として栄養士の視点から 2.「妊娠前、妊娠中の血糖管理」として血糖値管理の視点から講演いただいた。栄養士近藤氏からは、妊娠中の栄養と体重管理について注意したい栄養素を挙げ、具体的な摂取方法を説明された。</p> <p>体重管理については、妊娠前の血糖コントロールが大切で、低体重出生児の原因になり肥満や高血圧の関係性についても説明された。最後に摂取すべき栄養素を手軽に補う具体的な簡単レシピを挙げ、どのレシピも高栄養価&低カロリーであり女性技師は殊更楽しく聞くことができたと思われる。二演題目の血糖管理については、インスリン抵抗性と多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) についてご講演いただいた。糖尿病や肥満の方は PCOS になりやすく、生殖関連検査に関わる技師ならば PCOS が不妊の原因であることは周知の事実であるが、そのメカニズムを分かりやすく解説され再確認できた。インスリン抵抗性については、HOMA-IR の計算式を説明され、PCOS の症例の具体的な数値が提示され非常に参考になった。「肥満と妊娠」という不妊治療には、やや離れたテーマかと心配していたが、理論的に両者の関係性を示すことができ技師にとって有意義な講演会になったと思われる。</p>		
参加者	総数：21 名 (会員 17 名・会員申請中 1 名・非会員 3 名 (講師 2 名、付き添い 1 名))		
共催、後援など			

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：平成 30 年 7 月 30 日 報告者：小笠原恵

行事種別	研究会	行事番号	180006421	
開催日	平成 30 年 7 月 7 日 (土)			
時間	開始	15 時 30 分	終了	17 時 00 分
場所	藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院 (所在地 金山市)			
テーマ	肥満と不妊症の関連性～様々な症例を経験して～			
生涯教育履修数	専門教科 20 点			
司会	藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院		伊藤 裕安	
講師	トヨタ記念病院 平松 博子 八千代病院 小笠原 恵			
内容	<p>肥満と不妊症の関連性について、1.トヨタ記念病院 平松技師より具体的な肥満患者に対する取り組み 2.八千代病院 小笠原技師より具体的な糖尿病症例と不妊の関連性についてそれぞれ説明された。</p> <p>1.肥満患者に対する取り組みにおいては、患者、臨床検査技師、栄養士、医師それぞれの立場から不妊治療開始時の栄養指導の関わりについて具体例 4 症例を挙げ、体重や BMI の変動と治療内容を示された。症例のひとつは、妊娠しご本人のダイエット結果も合わせ説明された。問題点として減量指示の難しさや通院しなくなる患者がいることが判明した。今後の課題として肥満患者だけでなく不妊治療をしている患者全員に栄養に対する指導と情報提供の必要性があることを話された。</p> <p>2.糖尿病と不妊症の関連性においては、八千代病院で採卵実施した糖尿病症例 4 症例を挙げ、不妊治療の具体的な内容について示された。1 型糖尿病と 2 型糖尿病の ART 治療成績を時系列で示し、症例のひとつは妊娠したが、通常の不妊患者に比べ妊娠に至るまで日時がかかることが判明した。また不妊症患者の中で空腹時血糖 126mg/dl 以上、HbA1C 6.5%以上の割合や糖尿病性 ED との関連性についても示された。</p> <p>肥満も糖尿病も不妊症とは大きく関わりがあることがわかった。妊娠に対するリスクがあることも周知すべく生殖医学検査研究班として啓蒙活動することは重要であると思われる。</p>			
参加者	総数 15 名 (会員 15 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生殖医学検査研究班 提出日：平成 30 年 12 月 30 日 報告者：小笠原恵

行事種別	研究会	行事番号	180023846	
開催日	平成 30 年 12 月 1 日 (土)			
時 間	開 始	15 時 30 分	終 了	17 時 00 分
場 所	社会医療法人財団新和会 八千代病院 (所在地 安城市)			
テーマ	困った症例検討会～精液検査から体外受精まで～			
生涯教育履修数	専門教科 20 点			
司 会	藤田医科大学病院 古川 博			
講 師	豊橋市民病院	鈴木 範子		
	藤田医科大学ばんだね病院	伊藤 裕安		
	トヨタ記念病院	平松 博子		
	竹内産婦人科	榊原 重久		
	社会医療法人財団新和会八千代病院	小笠原 恵		
	藤田医科大学病院	古川 博		
内 容	<p>今回の研究会は、困った症例検討会と題して6つの病院の技師から様々な困ったことや他病院ではどのように対処しているのかを症例を具体的にあげて討論会を実施した。内容は1：豊橋市民病院 鈴木技師『低いグレードの胚盤胞はどこまで凍結すべきか』、2：藤田医科大学ばんだね病院 伊藤技師『人工授精 (AIH) の精子照合方法』、3：トヨタ記念病院 平松技師『AIH適応の精子基準』、4：竹内産婦人科 榊原技師『胚盤胞移植で妊娠しない症例の孵化補助技術 (AHA) の方法』、5：八千代病院 小笠原技師『Y染色体微小欠失検査 (AZFc欠失検査) におけるAZFc欠失症例』、6：藤田医科大学病院 古川技師『精巣内精子回収法 (C-TESE) の手技の確認』の6つであった。一般不妊治療のAIHから高度生殖医療の胚凍結やTESEまで、どの症例も屈託のない意見を交換できた。今回は高度な生殖医療ではなく基礎を知りたいとの意見があり、生殖班の今後の検討課題となった。</p> <p>生殖医療の現場は、病院やクリニック独自のルールがあり、技師はそのルールが妊娠率につながるか常に危機意識を持って業務にあたっている。よって他病院の情報を得て話し合う事は大変貴重であり、有意義な研究会となった。</p>			
	総数 16 名 (会員 16 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など				